

## 高岡から世界へ、地域連携・海外連携を考える

本学部と交流協定を結んでいるプラハ美術工芸大学から講師を招いてフォーラムを開催します。日本に滞在経験のあるスホメル副学長には海外から見た日本工芸の魅力について、建築学科長で前学長のペルツル教授には芸術系教育のあり方やプラハで行われている連携プロジェクト等についてお話しいただきます。地域のものづくりを海外からの視点で見直すと共に、国際的な連携を通してその価値を高めることを考えます。

### プラハフォーラム Prague Forum

日時： 11月2日(水) 3-4限  
13:00~16:15  
場所： 講堂  
聴講： 全学生  
一般参加も可



#### プラハフォーラム：講演1

##### 「西洋における日本美術工芸—470年の文化交流」



フィリップ・スホメル博士  
プラハ美術工芸大学  
副学長

プラハ・カレル大学芸術学部卒業（東洋・日本美術史専攻）。1994-1995、2002-2003の2回にわたり日本で在外研究をおくる。研究テーマは日本の磁器・漆工芸。プラハ国立美術館アジア美術部長（1995-2005）を経て、プラハ美術工芸大学において、「日本・中国美術のヨーロッパの芸術家に及ぼした影響」について教授（2007～）。日本の美術、特に陶磁器、有線七宝、写真、漆工芸、書画などに関する著書・論文多数。また、ヨーロッパに渡った日本工芸品、ハリリコレクション、明治期の写真などに関する、数多くの特別展の企画・組織にたずさわった。世界各地の国際シンポジウムにおけるパネリストとしても活躍している。

#### プラハフォーラム：講演2

##### 「主観と客観—デザインの教え方」



イジー・ペルツル氏  
プラハ美術工芸大学  
建築学科教授・前学長

多様な技法と素材を駆使した作品で国際的評価の高いデザイナー。プラハ応用芸術大学卒。ロンドンのロイヤル・カレッジ・オブ・アートで家具デザインを学ぶ。ポストモダニストデザイングループ Atika の創立会員（1987）。自身のデザインスタジオ Atelier Peld を設立（1990）。プラハ工芸美術大学の建築デザイン学科長（1997）、学長に就任（2002-2005）。英国ブライトン大学名誉博士号（2006）、チェコ共和国国民デザイン賞（2006）、ドイツの Form 2006 賞（2006）などを授与される。プラハ城内ヴァーツラフ・ハヴェル氏（チェコの劇作家・政治家、チェコ初代大統領）の書斎、聖ローレンス教会、ローマ及びプレトリアのチェコ大使館、グスタフ・マーラーの生家、などのインテリアデザインを委託された。チェコ、ドイツ、スイス、スウェーデンなどの美術館所蔵となっている作品も多い。

#### プラハ美術工芸大学とプラハ

プラハ美術工芸大学は、1885年に創立、チェコ共和国内の芸術系国立大学の中で最も歴史のある大学であり、建築・デザイン・芸術・応用芸術・グラフィック・美術史美学の6学部を擁しています。ガラス芸術をはじめとする東ヨーロッパの優れた芸術を学ぶことができます。

富山大学芸術文化学部とは2008年12月15日に学術交流協定を締結し、以降学生留学および教員交流を行っています。つまま project では、同校と共通課題を実施するなどして、国際的な感覚が養われる連携授業を構想しています。

プラハはチェコ共和国の首都で人口は約120万人の都市です。「建築博物館」「百塔の町」と呼ばれるように、ロマネスク、ゴシック、ルネッサンス、バロックなど中世以来のあらゆる建築様式を見ることができます。また、アールヌーヴォーの代表的な画家であるアルフォンス・ミュシャ（チェコ語では「ムハ」）や「わが祖国」で有名なスメタナの故国でもあり、街中で芸術文化の薫りが感じられる都市です。